

# 校長室だより

## ☆教育目標☆

自ら考え行動し、進んで行動できる生徒の育成

＜生活心得＞ 時を守り 場を清め 礼を正す

令和元年6月26日発行 №.6

富岡市立富岡中学校 校長 中村 喜雄

## ☆☆和顔愛語（わがんあいご・わけんあいご）・・・☆☆

「和顔愛語」とは、穏やかな笑顔と優しい言葉で人に接するということです。大乗仏教の經典の一つ「無量寿經」の中に出でてくる有名な言葉です。

普段から笑顔で愛情のこもった言葉で話すということは、相手や周囲の人に対しての最上の態度・接し方であるということを意味しています。書幅などにも書かれたり、座右の銘としている人もいるようです。

実は、今から36年前、私が教員生活をスタートする前日に、亡き父から「子どもたちには和顔愛語で向き合えよ」と言われました。なぜか、この言葉が心に響き、私の大切にしている言葉の一つとなりました。授業中はもちろん、生徒指導や様々な教育活動において、この言葉は私の心から消えることなく、意識のどこかにあったように思います。しかし、大きな課題が山積したり、厳しい現実の日々が続いたりした時には、果たして、常に「和顔愛語」を貫き通せたかどうかは、今思うと全く自信がありません。

ところで、インドの古くからの教えに「無罪の七施」というものがあります。地位や財産がなくても、誰もが、いつ、どんな時でも行える次の七つの布施行（ふせぎょう）＜修行のこと＞です。

①顔施 =慈しみに満ちた優しい眼差しで全てに接すること

②和顔施=常に笑顔を見せること

③愛語施=粗暴でない柔らかな言葉を使うこと

④身施 =礼儀正しく身体を使って人に尽くすこと

⑤心施 =他に心を配り善心をもって接すること

⑥床施 =他の人に喜んで席を譲ること

⑦房舎施=風や雨露をしのぐ場所を与えること

「和顔愛語」は、この②と③に通じる内容です。たとえ、相手のせいで気分がよくなくても、相手からいやな仕打ちを受けても、自分の思いどおりにならなくても、一つの修行として「和顔愛語」を心がけていくことは大切ではないかと考えます。

もちろん、常に「和顔愛語」を実践することは、そう簡単なことではありません。気分が悪い時や理不尽な相手に思いやりのあるやさしい言葉をかけるのは、抵抗があるものです。そこで大切なのが、「先意承問（せんいじょうもん）」つまり、「相手のことを先に考えて、与えること」です。笑顔になってほしいのならば、まずは相手に笑顔を見せることです。優しい言葉をかけてほしいのならば、まずは、相手に優しい言葉をかけてあげることです。幸せを求めるならば、まずは相手に幸せを与えることです。状況を考え、自分から先に相手の気持ちを察して相手の幸せを考えるのであります。このことを、私は生活の中で、「折り合い・察し合い」という言葉として使っています。いずれにしても、大切なのは、「思いやり」です。多くの人が、互いに思いやることを心がけていれば、人の心が穏やかになり、心豊かな生活につながるのではないかでしょうか。

このことから、一つの修行として「和顔愛語」を心がけていくことが、今後さらに複雑化する社会の中を生きていく上で生徒たちにとって必要な価値観だと考えます。

ちなみに、生徒会の今年度のスローガンは、「和顔愛語 未来を見据え 全身全靈 己の道へ」です。生徒たちもしっかりとと考えているのでしょうか。大変、頼もしいです。





